

# たはら歴史探訪クラブ

その9

## 百々神社(三) 日の出松

さて、百々神社がこのように町内でも有数の規模で、しかも貴重な文化財があるのは、この神社を百々村の庄屋であった清水家が篤く庇護したことによりです。

系譜によると、元和元年(一六一五)、大坂落城とともに清水家の先祖は百々村の海岸に漂着しました。その後清水家の当主は庄屋を務め、村政、漁業の振興など、村民の生活安定に力を注ぎ、村民の信頼を受けています。また家もおおいに繁栄し、歴代の当主は文雅風流にも造詣が深く、茶、生花などをたしなんだため、各地から人が訪れました。

ところで、江戸時代を通じて繁栄した清水家には、次のような言い伝えがあります。

清水家の初代盛政が、この村に漂着した際、ある松の木の下で休憩したところ、不思議な夢を見て、この地に永住する意思を固めました。この松は、幹の間から旭日のような光線が見えることから「日の出松」と呼ばれるようになりま

した。日の出松は清水家の庭園にあり、ここには吉田、田原藩主をはじめ名士が訪れ、この松を称える詩歌を寄せています。日の出松は、清水家の危機を救うなど、繁栄をもたらしたというところで、清水家のもとより、村民からもあがめられました。

残念ながら、清水家の隆盛を象徴した日の出松は現在では見ることができませんが、百々神社参道の東側には、日の出松があつた名残があります。ここは清水家の邸宅跡です。

その跡地には、ここを天保七年(一八三六)に訪れた糟谷磯丸が詠んだ歌の碑が、竹林にひっそりとたたずんでいます。糟谷磯丸



糟谷磯丸の歌碑

(一七六四〜一八四八)は、渥美町伊良湖村の漁師であり歌人でした。この歌碑は百々神社拝殿を再建した清水幾敬が元治元年に建立したものです。歌碑は石灰岩の自

広報たはらは、森林資源保護のため再生紙(古紙100%)を使用しています。

然石で作られたもので、「ひとよとへ 軒端の露に照りそひて 松のこのまの 月のさやけさ」(それぞれ一字をとると「ひのてまつ」と読める趣向)と彫られています。この時の記念に作られたものと思われるチラシがあります。絵は稲田文笠によるもので、高さ約7



「日の出松」刷物

メートル、太さ約5メートルもあったとされる当時の日の出松の威容を伝えます。また、邸宅跡には清水家の末裔清水盛明が昭和三四年に建立した『清水家霊松「日の出松」遺跡』『清水安次郎家の代々邸宅跡』と彫られた石碑があります。

▽田原町博物館 ☎22局1720

### 【人口と世帯数】

総人口	36,936人		
男性	18,851人		
女性	18,085人		
世帯数	11,493世帯		
出生	40人	死亡	19人
転入	96人	転出	97人
増減	20人		

(平成13年11月1日現在・増減は10月中)

【行政面積】 82.86 km<sup>2</sup>

(平成11年10月1日現在・国土地理院調べ)

今月の表紙 「日本全国酒飲み言葉」という曲があります。酒を飲む口実を延々と歌うあれです。この曲は何でも「お祭り」にしてしまおう日本人の気質を、とても端的に表しています(もちろん良い意味ですよ!)。クリスマスもしかり。それを口実に、日本全国津々浦々で楽しい宴が繰り広げられることでしょう。そんな際、クリスマスリースに使うのは西洋柵で、日本の柵とは科目が違うんですよ…なんて、お堅いことは言いっこなし。しかし、だからと言って、クリスマス・イブがカップルのための日、というのは少々飛躍しすぎかも。ましてや、それが原因で一喜一憂するのは本末転倒ですよ。 さて、トゲトゲした葉が印象的な柵ですが、老木になると尖ったところが無くなって丸い葉になります。これって、なんだか人間みたいだと思いませんか?